

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800310		
法人名	社会福祉法人 内野会		
事業所名	グループホーム 鴨生の里		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生693番地1	Tel. 0948-42-2790	
自己評価作成日	令和03年11月17日	評価結果確定日	令和04年02月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel. 093-582-0294	
訪問調査日	令和04年01月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鴨生の里は、天井を高くとり、木の温かみを感じられる開放感溢れる作りになっています。そして中央に皆様の共有スペースを設け、その周りを取り囲むように皆様のお部屋が有り、部屋の扉を開ければ何処の部屋からも共有スペースが目に入るので自然と中央の共有スペースへ集まり過ごされています。また、敷地内には畑が有り、ここでは季節の野菜を栽培して収穫の時には、皆様と収穫の喜びを味わっています。ここ数年コロナ禍で屋外でのレクリエーションなどが出来ない事も有り、施設ではリハビリを兼ねた体操や物作りに力を入れ、毎日、元気に過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「鴨生の里」は、2003年7月に開設された1ユニット定員9名のアットホームな雰囲気グループホームである。窓が大きく吹き抜けの天井からの採光で明るく広々とした共用空間では、リハビリを兼ねた体操や制作レクリエーションを楽しむ利用者と職員の笑顔と笑い声が溢れている。ホームドクターによる隔週毎の往診や緊急時の対応、週1回の看護師による健康チェック、長く勤めるベテラン職員との連携で安心の医療体制が整っている。裏の畑で採れた野菜や旬の食材を使って職員が交代で作る美味しい食事を提供し、利用者に大変喜ばれている。コロナ禍で外部との交流や外出は自粛しているが、畑での野菜作りやさつま芋掘り、芋づるの皮むき等、自然に触れる屋外での活動を通して生き生きとした暮らしに繋げている。管理者を始め、人柄の良い職員が長く勤める安定した環境の中で、利用者や家族との心の寄り添いを大切に支援に取り組んでいる、グループホーム「鴨生の里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝、唱和して常にご利用者に寄り添いやすらぎを感じられるように努めております。	ホーム独自の理念、「住み慣れた地域との寄り添い、人と人との心の寄り添いを大切に生きがいとやすらぎのある生活を支援します」を毎朝申し送りの後に唱和して理念の共有に努め、利用者、家族、地域の方々に寄り添った支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はいきいきサロンも閉鎖してしまい、コロナで外出する機会も減ってきているので、面会にいられたご利用者様のお友達との交流や往診をお願いしている歯科のスタッフ様との交流の時間に尽きます。	コロナ感染対策以前は、地域の敬老会や同法人施設の秋祭りに出かけ、中学生の体験学習やボランティア等の受け入れも行っていたが、現在はコロナ禍の中で自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サザンカフェなどで参加された皆様に向け、グループホームの事をお話する機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に行われる運営推進会議も、コロナ禍で、外部参加を中止し、内部のみで行っている。しかし、その際、様々な取り組みやサービス向上に向け話し合いを行っている。	新型コロナウイルス感染症対策の為、会議は2ヶ月毎に内部のみで開催し、入居者状況、行事、事故・ヒヤリハット、身体拘束廃止の取り組みを書面で報告している。委員から意見や情報提供があれば、サービスの向上に活かしている。	書面で議事を送付し、外部委員からのコメントを収集して議事録にまとめる等、一方的に送付するだけでなくやり取りが残る双方向的な書面会議を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所への様々な報告書や問題解決の糸口を得るため担当者には日頃より連絡を取っている。	グループホーム連絡協議会に参加し、困難事例についての話し合いや情報交換を行い、行政と連携を図っている。運営推進会議と身体拘束廃止の取り組みをメールやファックス等で送信し、質問やアドバイスを受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	PCでの研修や職員ミーティングなどでも問題提示して皆で考える機会を設け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングの中で身体拘束について研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為を確認し、皆で考える機会を設けている。帰宅願望の強い利用者についても、出かけるのを制止するのではなく、「一緒に連れて行って」と声掛けする等、言葉での押さえつけが無いように言葉遣いに気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	PCでの研修やシルバーケア嘉穂で毎月、行われる会議に参加して学び、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	PCでの研修や全体会議などで学ぶ機会を持ち話し合っている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修を受講し、職員一人ひとりが制度についての理解を深めている。権利擁護の制度の資料を用意し、必要時には制度を活用出来る支援体制を整えている。現在、制度を活用している利用者がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりとした口調で、納得のいくまで説明して契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書を送付する際に 前月の行事などが載っている広報誌と一人ひとり情報などを事細かに報告・相談させて頂いている。	職員は共に過ごす中で利用者の要望を把握している。電話やメールで、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。毎月、「ブロッコリー通信」と個別の近況報告に写真をつけて家族に送付している。コロナ禍で面会が中止となっているが、平屋造りであるため、窓越し面会によって元気に過ごせている事は伝えられている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングなどで、様々な事や今後についてなど話し合い皆の意見を聞く機会を設けている。	法人本部で全体会議が行われ、その後ホームで夜勤明け以外の職員が全員参加して職員ミーティングを開催している。毎回数名ずつ利用者のカンファレンスを実施し、担当職員を中心に意見を出し合い、ケアの統一に努めている。会議は活発な意見が出され、出された意見を出来るだけホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの努力などは見落とさないようにしっかりと見届け、賞賛の意を表すようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員、一人ひとりの能力が発揮できるように配慮している。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担して、職員が働きやすい職場を目指している。また、介護福祉士の資格を取得すると社員として登録できる制度が励みとなり、積極的に資格を取得する職員が多い。職員の募集は、年齢や性別の制限はなく、人柄や介護に対する考えを優先している。人柄の良い職員が集まり、人間関係も良い為、職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様の人権を尊重するよう、ミーティングなどでも話しをする機会を設けている。	法人内の人権研修に参加した職員が伝達研修を行い、共通理解に努めている。職員は利用者を敬う気持ちを常に持ち、言葉遣いや対応に注意し、利用者一人ひとりの人権を尊重した介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	PC上で行う研修を受講している。また、リモートでの研修参加を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は出向いて行くことが出来てないが、近くにある同法人のグループホームへは頻回に出向いて良いことは取り入れたり、サービスの質の向上に向けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を抱かないように、やさしく寄り添い何でも話せる関係性を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画を立てる段階で、ご家族様の意見や要望をしっかりと聞き、じっくりと話し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所された時など他愛もない話しをするうえで、どのように感じているか？などを見極め、より安心して頂けるように説明をし対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴する時間をなるべくたくさん持つようになっている。また、話しを聞くことで食材の調理方法なども教えて頂いたりもしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは普段より様々な報告を密に行っているが、その中で ちょっとしたエピソードを加え、より一層親近感を抱いて下さるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の来所の際など、またお越し頂ける様、お声掛けをしたり ご自宅の様子が心配と思っている方をご自宅にお連れしたりしている。	新型コロナ感染症対策の為、面会は中止となっているが、友人から定期的に電話がかかってくる、毎月決まって、「おやつを渡したいんだけど」と来てくれる友人がいる。職員は、「ずっと友だちでいて下さって嬉しいですね」と利用者へ声かけし、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても、(合う・合わない)が生じるので、状況を見て席替えなどを行い関係性が悪化しないように対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お近くへお越しの際など、立ち寄って頂けるような声掛けを行っている。それにより実際にお立ち寄り頂いたり「今、何人の方がいらっしゃるの?」など、話しが広がっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴を繰り返し、一人ひとりの思いや希望を把握した上で、それに向け話し合いを行い対応している。	毎日の生活の場面を見ている職員が、利用者の気持ちを汲み取り、皆で情報を共有しながら、利用者一人ひとりの思いや意向を尊重した介護サービスに取り組んでいる。困難な場合には、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者へ寄り添い、その表情や仕草から思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より時間を掛け職員へ伝えている。また、アセスメント表などにも目を通しておように申し伝えて把握して貰っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、毎夕の申し送りの際には、一日の様子を申し伝えている。また、その他ちょっとした変化も見落とさないようにアンテナを張り巡らせている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意向を聞き、生活リハビリの場面では理学療法士の意見を聞きケアミーティングで話し合いを重ね、計画担当責任者が作成している。	利用者、家族の意見や要望を聞き取り、カンファレンスやモニタリングの中で、職員の気づきや提案を採り入れ、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があれば、家族や主治医と話し合い、その都度介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当たり前の日常の様子は勿論、そうでは無い様子や意見、気づきなどは特に分かりやすく詳しく記入して貰うように常日頃より申し伝えている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様との話し合いを重ね、出来る限り柔軟に対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが楽しみを見つけ心豊かな生活が送れるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	些細な変化なども細かく申し伝え、それに対して柔軟に対応して下さっている。また、ご家族様にも状態の報告などは密に行っている。	契約時に利用者や家族の希望を聴き取り、主治医を決めている。入居前からのかかりつけ医が主治医の場合は、家族対応で受診している。協力医療機関の医師による月2回の往診と看護師、介護職員が連携し、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりのちょっとした変化や心配に思える事など、申し伝え適切な受診などが出来るように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来る限り病院へ出向き、現在の状況などの把握に努め、早期の退院に向けられるよう病院関係者と連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態変化が生じた場合など、ご家族様、主治医と話し合いを重ね その方向性に向けてチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、「重度化した場合の対応に係る指針」を基に、ホームで出来る支援について説明し、承諾を得ている。利用者の状態変化や重度化に合わせて、家族や主治医と話し合っ方針を確認し、関係者で共有して、利用者の終末期の環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ミーティングなどで訓練、シミュレーションを行い、即座に対応できるようにしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練年2回、風水害避難訓練年1回を実施して全職員が即座に対応できるようにしている。	消防設備点検時に合わせ、避難訓練を夜間想定を含め年2回実施している。通報装置や消火器の使用方法を確認し、避難経路、非常口、避難場所を確保して、利用者が安全に避難出来る体制を整え、近所にある同法人施設との協力体制も整っている。また、事務所に非常持ち出し袋を用意し、飲料水、非常食も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応が出来るよう又、いかなる場合も丁寧な言葉かけが出来るようにと申し伝えている。	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて職員間で話し合い、特に排泄や入浴の場面では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した支援に取り組んでいる。また、利用者の個人情報取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しをする機会を持ち、ご本人様の思いや希望を受け止められるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースで毎日を過ごせて頂けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝やトイレの際なども、ちょっと鏡を見て頂いたり「この洋服素敵ですね」等と声掛けすることでおしゃれする事や身だしなみを整える事が大切と意識付けしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作際には、綺麗におしゃれに盛り付けるように工夫している。畑の野菜の皮むきなども手伝って頂いたり、テーブル拭きなども率先して下さっているの、毎日、感謝の気持ちをお伝えしている。	裏の畑で取れた野菜や旬の食材を使って職員が交代で作る家庭的で美味しい料理を提供し、利用者大変喜ばれている。盛り付けにも心を配り、見た目にも食欲をそそるように配慮している。芋の蔓を剥いてもらったり、テーブルを拭いてもらう等、できる事は率先してやってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の記録や日々の状態把握に努め、栄養、水分摂取が促せるように努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には声掛けにて促し、お手伝いが必要な方々は洗面所へお連れして、毎食後口腔ケアを行っている。また、大半の方が毎週月曜日に歯科往診を受けてメンテナンスを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握した上で、自然な声掛けで排泄の失敗が無いように自立に向けた支援を行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草を観察しながら声掛けや誘導を行い、利用者の居室のトイレで排泄出来る支援に取り組んでいる。また、夜間は利用者の希望を聴きながら、出来るだけトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や職員と散歩をしたり、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を飲んで頂いたりして快便に繋げている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回(火・木・土)となっているが、無理押しはせず、入浴を楽しんで頂けるように、時間をゆったりと取っている。	入浴は利用者の希望や健康状態に配慮し、週3回(火、木、土)を基本としている。柚子湯や菖蒲湯等、利用者と職員がゆっくり会話しながら、楽しい入浴になるよう支援している。冬場になったら、「入りたくない」と言う方もいるが、浴室、脱衣室を暖めて、無理強いしない声掛けで、入ってもらえるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡をされる方、されない方様々ですが、お一人お一人の生活習慣、その時々状況に合わせて休息して頂ける時間が持てるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	皆様の服薬内容は表にして、いつでも確認しやすいようにしている。また、職員2人で声出し確認を行い、誤薬が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは、一人ひとりの好みのレクを把握して、それぞれが楽しんで頂けるように支援し、お手伝いなどをして頂く事で、役に立てていると思えるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	従来は様々な外出計画を立てていたが、コロナ禍に入り激変している。現在は病院受診や庭先での散歩、ドライブなどですが、少しずつ以前のように戻していけたらと思っている。	コロナ禍以前は外出計画を立ててよく出かけていたが、現在は自粛している。そのような中でも、病院受診に伴う外出や裏の畑での野菜作り、庭先での外気浴、花見ドライブ等、工夫しながら気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金の事は、入所者様全員にお伝えし、必要な物がある時には購入出来ている。また、パン販売が来られた時にはご自分で選んで支払いして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	配達された手紙をお渡ししたり、絵手紙を作成して、それぞれがご家族様にお送りしたり、電話を掛けたりは普段、様々な場面で行われている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に清掃を行い、落ち着く空間作りに努めている。また、季節の草花を飾ったりして季節感を感じて頂けるようにしている。	大きな窓と吹き抜けの天井からの採光で明るく開放的なリビングである。レクリエーションで利用者と職員が一緒に制作した季節毎の壁画や利用者の笑顔の写真を掲示し、季節感、生活感を大切に共用空間である。清掃も行き届いている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには(食卓テーブル・陽だまりソファ・長ソファ)など、各々が好きな空間で過ごして頂けるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族様と話し、馴染みの物や趣味の物などを置くなどして落ち着いて生活出来るように促している。	利用者が長年使い慣れた家具やテレビ、写真等を持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかな気持ちで過ごせるように配慮している。居室にはトイレと洗面台を設置している。畳を敷いて本人が手作りした趣味の物を飾り、家族と話し合いながら、その方らしい部屋となるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはといれ、洗面所が有り、どのお部屋からでも扉を開ければ、皆様と過ごす共有スペースが見えるような作りなので、障害物を無くし安全に過ごして頂けるように努めている。		